

令和7年度 国有林の見回り隊開始

令和4年度に発足した「ニホンジカ捕獲応援（国有林の見回り隊）」が4年目に入り、今年度は5月27日に遠野市、遠野猟友会が主催する安全講習会に支署職員18名、森林環境保全整備事業（東恩徳国有林）を契約している（株）昭林 遠野営業所職員4名の22名が安全講習を受講し、スタートしました。これまでの捕獲頭数は、発足年度0頭、5年度3頭、6年度9頭を捕獲し、今年度も、有害捕獲期間の10月31日まで行います。



ここで「ニホンジカ捕獲応援（国有林の見回り隊）」について紹介します。

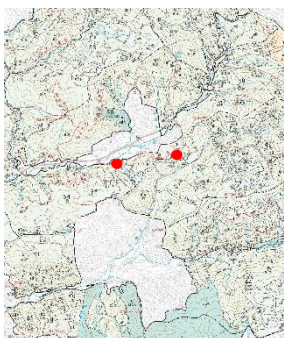
遠野市は、農作物被害対策として、農地周辺での捕獲向上を図るための「ニホンジカ捕獲応援隊」を設置し、狩猟免許を持たない農家（応援隊）が狩猟免許を所有する（実施隊）の補助者として活動しています。

遠野支署では、このような活動を、森林被害が増加している国有林内で運用できないか遠野市、遠野猟友会と協議を行い、令和4年度に「国有林の見回り隊」を発足しました。見回り隊は、遠野市主催の安全講習を受講し補助者として認定された者に限ります。補助者は、わなの管理と見回りを行い、シカの捕獲を発見したら、捕獲実施者（猟友会）に報告し、個体を処理してもらうという活動です。

これまでのわなの設置の手順として、①囲いわな（商品名：こじゃんと2号）の設置場所を決め → ②餌付けで誘引を行いシカが餌を食べるのを確認 → ③わなを仮設置して餌付けを続けシカの警戒心を解く → ④猟友会の判断でロックを解除し捕獲する流れでした。昨年度は、餌によってきたら、わなを設置すると同時に捕獲開始でしたが、今年度は、場所が決まったらすぐにわなを設置し捕獲を開始するとのことでした。



今年度は、生産事業請負「森林環境保全整備事業（土淵地区）」で事業と請負事業体の通勤路となる恩徳林道沿いに設置することとし、設置に当たっては、猟友会、請負事業体、支署が立会、事業に支障のない場所に、6月3日に3基設置しました。



餌は、ハイキューブ、鉋塩、塩水です。
（設置場所：東恩徳国有林 54 林班に3小班ほか）



捕獲したシカの個体は、昨年度国有林内に遠野市が設置した大型排水管（残渣処理設備）に投入処理します。

いたずらされないように、施錠されています。

※管の長さ：3m、地下：2m、地上：1m、直径：1500mm）

投入後は、分解を促進するために「ぼかし肥料」をいれます。



（報告：森林技術指導官 尾留川）